

おほとものやかもら たちばな はな をよ 攀ちて、 坂上のおほをとめ
大伴家持、橘の花を攀ちて、坂上大嬢
におく うた 一首 并せて短歌 たんか

一五〇七番

いかといかと ある我がやどに 百枝さし 生ふ
たちばな たま 玉に貫く 五月を近み あえぬがに
はなさ 花咲きにけり 朝に日に 出で見るごとに 息の
を 緒に 我が思ふ妹に まそ鏡 清き月夜に た
ひとめ だ一目 見するまでには 散りこすな ゆめと言
ひつつ ここたくも 我が守るものを うれたき
や 醜ほととぎす 暁の うら悲しきに 追へ
お ど追へど なほし来鳴きて いたづらに 地に散
らせば すべをなみ 攀ちて手折りつ 見ませ
わぎもこ 我妹子